



徳川美術館 名品コレクション展示

令和6年9月10日(火)～12月15日(日)

展示期間 A:9/10(火)～10/14(月・祝) B:10/16(水)～11/15(金) C:11/16(土)～12/15(日) D:11/26(火)～12/15(日)

【第5展示室】

凡例:◎は国宝を示します。

大名の雅び - 奥道具 -

大名自身やその夫人・子ども達の私的な生活の場「奥」で、身の回りを飾ったり、使用した道具、また教養を高めたり、趣味や遊びに用いた道具を奥道具という。大名の華やかな生活をしのばせる豪華な蒔絵の調度品は、婚礼の際の入奥道具に多い。その種類は、香道具・化粧道具・文房具・飲食器、旅道中具・遊戯具・楽器など多岐にわたる。

王朝文化の伝統をひく貝合せや間香は、単なる遊びではなく、武家の婦人に欠かせない教養だった。楽器の演奏も、たしなみの一つである。古くから宝物視されていた古筆や古画はもとより、江戸時代の狩野派・土佐派の作品や、浮世絵なども愛好されていた。

No. 指定 名称	作者・所用者・所蔵者・寄贈者など	時代	世紀	期間
1 四季草花図屏風 六曲一双	関翠岳・小島老鉄筆 真光院良子(尾張家18代義礼夫人)所用	江戸	19	A
2 御所車・花車図屏風 六曲一双	吉田友昭氏寄贈	江戸	18-19	B
3 源氏物語図屏風 六曲一双		江戸	17	C
4 長谷寺縁起絵巻		鎌倉-南北朝	14	A
5 戸山荘八景図巻 下巻	狩野養川院惟信筆	江戸	18	B
6 徒然草絵巻(なぐさみ草絵巻) 十二巻の内 巻四		江戸	17-18	D
7 虫籠蒔絵重香合	個人蔵	江戸	18	AB
8 源氏物語蒔絵沈箱	個人蔵	江戸	18-19	AB
9 団扇蒔絵香筆筒	個人蔵	江戸	18-19	AB
10 尾長鳥桃蒔絵沈箱	光雲院安己君(尾張家6代継友正室)所用 個人蔵	江戸	18	AB
11 牡丹唐草蒔絵香道具	真證院規姫(尾張家14代慶勝実母)所用 個人蔵	江戸	19	AB
12 菊蒔絵香箱		江戸	18-19	AB
13 三十六歌仙和歌色紙貼交屏風 二十曲一隻	伊予西条松平家伝来	江戸	17	C
14 手鑑「詞華聯芳」	乗蓮院彰君(尾張家10代齊朝実母)所用	江戸	17	C
15 ◎ 初音蒔絵楊枝箱	霊仙院千代姫(尾張家2代光友正室)所用	江戸	寛永16年<1639>	AB
16 ◎ 初音蒔絵乱箱	霊仙院千代姫(尾張家2代光友正室)所用	江戸	寛永16年<1639>	C

【第5展示室の見どころ - 国宝 初音の調度 -】

初音の調度は、寛永16年(1639)9月21日、3代将軍家光の長女・千代姫が、尾張家2代光友に婚嫁する際に持参した調度で、日本一豪華な嫁入り道具といわれる徳川美術館の代表的所蔵品の一つである。鏡台や貝桶、三棚などの蒔絵調度を中心に、染織・金工品など総計70件が国宝に指定されている。「初音の調度」の名は、『源氏物語』「初音」の帖の「年月を 松にひかれて ふる人に 今日鶯の 初音きかせよ」の歌意を全体の意匠とし、その歌の文字を葦手書きに散らしていることに由来している。

特別公開 国宝 源氏物語絵巻

※展示期間 11月16日(土)～11月24日(日)

◎ 源氏物語絵巻 関屋・絵合

平安

12

※

◎ 源氏物語絵巻 竹河(二)

平安

12

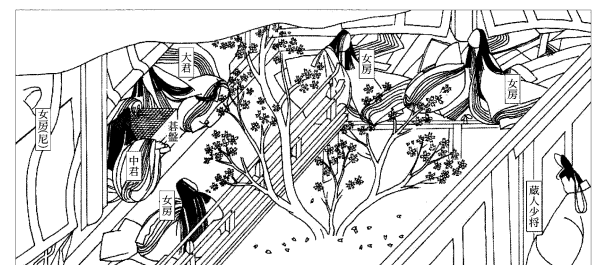
※

わが国の代表的な美術品とも言うる、国宝「源氏物語絵巻」は、王朝時代の人々の雅びやかな暮らしぶりを余すところなく伝えてくれる現存最古の物語絵巻である。毎年11月下旬には、この絵巻から数場面を選んで特別公開を行なっている。もとは巻物装として伝わり、昭和7年(1932)に保存のために額面装に改装され、近年、額面装による本紙への負荷を軽減するために再び巻物装に戻し、一場面ごとに絵と詞書を一巻の巻物に仕立て、絵巻本来の姿で鑑賞いただくことが可能となった。

関屋

九月のつごもり、石山に詣でる源氏の一行。

紅葉の美しい逢坂の関で、昔かりそめの想いをかけた空蟬と邂逅する。



竹河(二)

春三月の玉鬘の邸、壺前栽に咲く桜を賭けて大君・中君の姉妹が碁の勝負を争う。その傍の簀子には侍女達も居並んで囁し立て数々の歌を詠み交す。蔵人少将、物陰からこれをうかがう。